

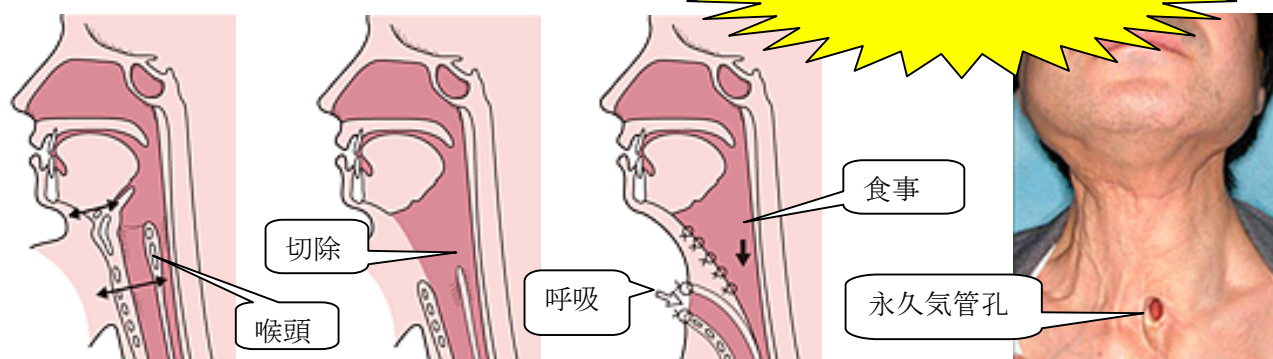
「永久気管孔の閉鎖による死亡事故」について

脳内出血で入院中の70歳代の男性入院患者ののどに開けられていた呼吸用の穴を、看護師が誤って塞ぐミスがあり、男性が窒息死した。

患者は約10年前、喉頭癌手術の際「永久気管孔」(直径2センチ)が開けられていた。気管孔をガーゼで覆って異物混入を防いでいたが、ガーゼが外れがちだったため、20歳代の女性看護師が3日午後3時頃、代わりに通気性のない合成樹脂製の粘着シートを貼って穴を塞いだという。約1時間半後、巡回していたこの看護師が男性の呼吸が止まっているのに気づき、午後5時頃、死亡が確認された。

看護師は11月25日から男性を担当。カルテには「喉頭の摘出、気管切開あり」との記載はあったが、「永久気管孔」とは記されていないという。(報道より抜粋)

永久気管孔とは:



留意事項:

1. 鼻や口から呼吸をすることができない。
 - ① 臭覚がほとんどなくなる。② 熱い物に息を吹きかけて冷ますことができない。
2. 首に穴があいたままになるため、空気が直接気管、気管支、肺に入る。
 - ① 気管孔から水が入ると直接肺に入るため、シャワーやお風呂は注意が必要。水泳・潜水禁止。
 - ② 空気を直接吸い込むためゴミが入りやすい。また、湿度が不足し痰が固くなる。
3. 声帯がないため声が出せない。(各種発声法で代用できる)
4. その他
 - ① 鼻がかめなくなる。② 鼻や口を閉じて力むことができなくなる。

参考文献:

* 日本頭頸部癌学会参照

http://www.jshnc.umin.ne.jp/general/section_03.html

* がん情報サービス参照

http://ganjoho.jp/public/dia_tre/attention/rehabilitation/tracheostomy.html